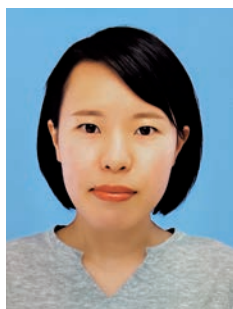


学会賞受賞の紹介

第11回アジア農業経済学会（The 11th ASAE International Conference）日本語セッション特別賞

受賞タイトル：「コミットメントによる野菜摂取量の変化—生体情報を用いたランダム化比較試験による—」

受賞者：玉木志穂（食料領域 研究員）・高橋克也（食料領域 総括上席研究官）



2023年3月に日本農業経済学会と共催で開催された第11回アジア農業経済学会国際大会（The 11th ASAE International Conference）にて、玉木志穂・高橋克也による研究報告「コミットメントによる野菜摂取量の変化—生体情報を用いたランダム化比較試験による—」が、The 11th ASAE大会

賞日本語セッション特別賞（Best Paper Award for Japanese Special Sessions）に選出され、優秀報告として表彰されました。

本報告は、本省園芸作物課と食育課、農林水産政策研究所の共同で実施した「『もっと野菜を食べよう』野菜摂取量の見える化の取組」の成果をとりまとめた内容です。

これまで国民の健康維持等を目的に野菜の消費拡大運動が実施されてきましたが、日本人の野菜摂取

量は成人一人一日あたり280g程度（「国民健康・栄養調査」（令和元年））にとどまり、「健康日本21」（厚生労働省）で摂取目標とされる350gとは乖離がある状況が続いています。そこで本報告では、生体情報による客観的な野菜摂取量の指標を用いて、野菜摂取量を増加させる方法を検討しました。その結果、野菜摂取量計測機器を用いて具体的な野菜摂取量を数値で示すことにより、その後の野菜摂取量が増加することが確認されました。さらに、目標とする野菜摂取量を設定することによりいっそう摂取量が増加したことから、単に野菜を摂取するように情報提供を行うだけでなく、目標となる摂取量の設定を促すことで野菜の消費拡大に結び付く可能性が示唆されました。なお、これらの2022年度の成果を拡張して2023年度も取組を進めています。

なお、当研究所の楠戸建・日田アトム・橋詰登「中山間地域等直接支払における1集落1協定の動向—農業集落の状況と関連—」も同賞を受賞しました。

日本沙漠学会 奨励賞

受賞タイトル：「セネガル川氾濫原での新規農地開発に基づく食料安全保障の改善に向けたコメ消費者趣向調査」

受賞者：丸山優樹（食料領域 研究員）



日本沙漠学会2023年第34回学術大会にて、丸山優樹研究員が日本沙漠学会奨励賞を受賞しました。本賞は、乾燥・半乾燥地に関する萌芽の研究業績を挙げた会員に授与するものであり、特に、35歳以下の博士課程在籍者または博士課程修了後10年以内の若手研究者を対象としたものです。

受賞者は、西アフリカのセネガルとモーリタニアを対象に、急増するコメ消費を輸入米ではなく国産米によって賄う方策として、①両国の国境沿いを流れるセネガル川の水資源の効率的な利活用、②消費者ニーズに適合したコメ生産の推進を掲げ、研究を続けてきました。

1つ目の水資源の利活用については、治水整備が未発達であるために洪水が頻発するセネガル川において隣接する乾湖を遊水地化する事業を提示し、工

学的手法である数値シミュレーションによって、その事業の洪水抑制効果を定量的に評価してきました。

2つ目は、国産米の消費量を増加させるうえで、増産政策のみならず、消費者の好みに応じたコメを生産するマーケティング分野の視点に着目し、現地における消費者アンケート調査を通して、コメの消費者選好を定量的に評価してきました。

そのため、分野融合型の研究を通して、生産から消費に至る国産米のフードシステムの発展に寄与することを目的としており、その一連の研究成果に対して賞が授与されました。

本研究は、現在も当所の「主要国における農業政策の改革の進展とそれを踏まえた中長期的な世界食料需給に関する研究（アジア・アフリカに関する調査研究）」の一環として取組んでいます。我が国としても、アフリカ地域での稲作振興に注力しており、「アフリカ稲作振興のための共同体フェーズ2（CARD2）」の発足等を通して、支援を続けています。本研究も同振興の一助となるよう、引き続き邁進してまいります。